今月の表紙　（画：清水　昇）

「三河三谷駅ロータリー」
（三谷町上野）

三谷は良港に恵まれ、江戸時代より海運と漁業が盛んな地でした。明治以降は、専ら盛んになった織物や醸造製品の搬送と九州からの石炭搬入などで三谷港は賑わっていました。

しかし、昭和4年に旧三谷町の総意と熱意で三河三谷駅が開設されてからは大量・迅速輸送が可能となり、物流形態が大きく転換しました。併せて、大八車の通れるだけの曲がりくねった道も「6間道路」として変身しました。

これにより、昭和10年に始まった遠洋漁業の漁獲量増大にも対応でき、さらに、海水浴や温泉客の玄関口として、三谷の発展に大きく寄与しました。

駅舎・プラットホームを設けるため、旧線路を少し北に移設したので、地元に大変な費用負担が掛かったようです。線路は高架のため、旧三谷町は4つのガードと1つの踏み切りで南北に通じ、車社会の現代に有効に働いています。その後、平成2年に駅舎を改築し、引き続きロータリーも整備され今の姿となりました。秋の三谷祭にはここに歓迎ゲートを架設、祭り一色になります。

この絵は、西の長いプラットホームを割愛し、ロータリーを中心に、東の駅舎と背景に砥神山を配するよう、小屋の屋根に上り少し高い視点で描きました。

目次 Contents

協働のまちづくり条例が誕生しました	3
今なぜ食育？	4-5
君もノーベル賞候補だ！ 発明クラブに入ろう	6-7
申告はお早めに	8
パブリックコメント募集	9
MYスクール・図書館だより	10
まちの達人・読む水族館	11
遊びにおいでよ児童館へ	12
健康カレンダー	13
市民相談	14
お知らせ	15-27
クイズまちがいさがし	28
ふれあい宅配便	29
企画展「蒲郡の自然」	30
こどもミュージアム	30

はなごよみ
HANAGOYOMI

樹木医・技術士（建設部門・環境部門）　原 野 幹 義

「花滝の流るるごとき枝垂れ梅・ウメ」

少し前までは、観梅と言えば一歩間違うと寒梅となり、まさしく厚着をして寒さに震えながらのものでした。それでも桜に比べ華やかさでは叶わないまでも、樹下で一つひとつの花を愛でながら、ほのかに漂う梅の香に身を委ねる心地よさは格別のものでした。

日本列島のあちこちで、新しい花の名所が誕生する中、枝垂れ桜、枝垂れ桃、枝垂れ梅など、枝垂れ系の花木は注目です。もともと植物は光合成のために、上に上にと伸びる性質があり、制空権をめぐっての凄まじい空中戦を戦っています。それが重力に逆らうことなく、受け流すように大地に向かって枝を伸ばす花姿はとてもやわらかく、優しい印象を受けます。果樹でも真っ直ぐ上に伸びる枝は若々しくて花を付けず、枝を下に誘引すると花を付けやすくなります。枝垂れ系も花が多く、花滝が流れるごとき感があり、優しい中にもとても豪華な感じがします。

学生時代を過ごした宮崎では、この季節一足早い花見が始まりました。焼酎と重箱を持って、梅香の下でのどかな宴会が始まるのです。なるほど南国宮崎と思いましたが、このまま温暖化が進むと、新しい風物詩として広がるかも知れませんね。